

新宿区

学校・園数

57校・園*

園児・児童・生徒数

12,836人*

地域の特徴

区内にオリンピックスタジアムがあり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に対して地域の熱い思いがある。

* 学校・園数及び園児・児童・生徒数は、令和3年5月1日時点

新宿区のオリンピック・パラリンピック教育の取組事例

取組の効果

【障害者理解教育の推進 ～障害者スポーツ体験～】

(区が推進するオリパラ教育関連事業の中の一つ)

- 区立小・中・特別支援学校では、ブラインドサッカー、ボッチャ、シッティングバレー、ゴールボール、車いすバスケットボールの中から1種目を選択し、障害者スポーツ体験を実施
- 区立幼稚園、幼保連携型子ども園では、園児と保護者が共に参加する「親子deボッチャ」を実施

- 障害のある当事者との接し方を学ぶとともに、自分にどのようなことができるのかを考えることができた。
- 障害者スポーツに対する興味・関心が高まり、東京2020パラリンピック競技大会を盛り上げていきたいと意欲を高めることができた。
- 「多文化・共生のまち新宿」の一員としての自覚をもち、誰に対しても分け隔てなく接していこうとする態度を育むことができた。

取組の様子

新宿区独自教材の開発と事前学習の充実



新宿区では、障害者スポーツ体験の事前学習を充実させるため、独自の障害者理解教育推進教材を作成した。子どもたちが自己の課題意識に基づき、主体的にパラリンピックや各競技の概要について学ぶことができた。

事前学習を踏まえ、障害のある当事者とスポーツを体験することで、子どもたちは、目標に向けて努力することの大切さや自分のよさや可能性を信じて取り組むことの大切さに気付くことができた。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後も、これまで築いてきた各障害者スポーツ団体との関係をさらに深めながら、障害者理解教育を進めていく。

東京2020パラリンピック競技大会 学校連携観戦



区立小学校(第4学年から第6学年)及び区立中学校(全学年)の希望者が「学校連携観戦」に参加した。オリンピック・パラリンピック教育の集大成として、子どもたちのかけがえのない記憶となる教育活動を行うことができた。

日本人選手が活躍する姿やスタジアムの迫力、ボランティアとして大会を支える人々の姿に感動する子どもたちの声が多く聞かれた。